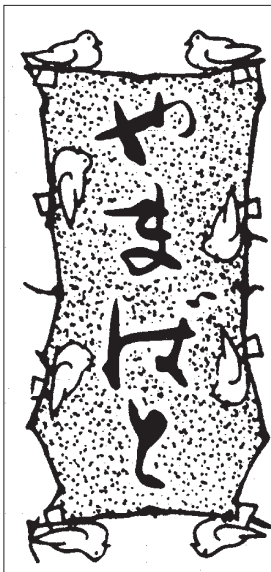


発　行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
機関誌代は無料です。

日本訪問の感想

ブラザーアンドリュー　記

〈初めに〉　（訳者　長沢道子より）

ブラザーアンドリューは、マザーテレサの働きを助けるため、シスター（女子）のみで構成されていた「神の愛の宣教者会」に、男子（ブラザー）の部を創設した修道士です。修道士になった理由について、たしか、こう言われました。「かつては証券会社で働き、宗教には全く無関心。金儲けに明け暮れする日々だったが、ある日突然ひどい虚無感に襲われ、それがきっかけで方向転換することに」。

今回は、そのブラザーが二十七年前来日した時の感想文をご紹介することにしました。なぜ二十七年前の文章を?ということですが、当時（一九九七年）ブラザーアンドリューは、牧ノ原やまばと学園にも来て下さり、講演会や礼拝で話をすると同時に、施設のご利用者や職員に対してもこう語って、励まして下さったのでした。「皆さんはこれからも、互いに愛し合うことを大切にしてください。皆さんの使命は、（優劣を競う）現代社会に、『愛』を届けることです」と。

その後日本の福祉は、「措置」から「契約」に変わり、専門性の重視や、民間業者の参入など、激変。業者間の競争も激しくなり、福祉分野にも、「経営分析」「生産性の向上」「キャリアパス」という言葉が飛び交うようになりました。

好むと好まないとにかかわらず、私たちはジワジワとその縄目に絡まれ、目の前のご利用者にじっくり向き合い心を通わせるよりも、記録の入力や、専門的知識の学び、テキパキと仕事を片づけることを優先しがちになっています。社会に『愛』を届けるという『やまばと』の使命は、果たして、良い歩みを続けているでしょうか?

合理化や生産性を追求する周囲の荒波にもまれて、目的と手段を取り違えることのないよう、ブラザーアンドリューの言葉を、もう一度確認することにした次第です。

なおこの資料はカトリック関係の書物に掲載されたようで、ご本人から、（ブラザーを招き、企画充実のため尽力した）飯島蘭子さん宛て届いたもの。実は、当時ブラザーはガン末期だったのですが、誰もそのことを知らず、この文は遺稿となったのでした。（紙面の都合上カットした部分もあります。）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

オーストラリアを発つ前、私は、約一か月にわたって信仰の話をしなければならない務めを思って、改めて自分の無力と乏しさを実感していた。日本人の精神や日本文化に馴染みがないのに加え、日本語を知らないことも、大きな障壁に思えた。感動的なメッセージも浮かばず、私は疲れ、気が沈んだ。有能な人びとのところへ、私は空っぽのまま行こうとしていた。

無力を感じたまま旅は始まり、自己憐憫と絶望感にとらわれがちだったが、しかし不思議にも、神ご自身が、そんな私を引き上げてくださり、やがて私は、この旅の意義、喜び、人びとと分かち合うべき光が見えるようになった。

イエス様は、僅かのパンで五千人もの人々を養われた。が、弟子たちは肝心の時に、そのイエスの力を忘れたと聖書は伝えている。私も同様であった。（僅かのパンに等しい私を用いて、イエス様は、五千人を養って下さるのだ！）

幸いにも日本での最初の黙想会は、かなの家（ラルシュ）で行われた。知的障碍を持つ人たちと、その家族、世話人の皆さんが私に期待したことは、他でもない、彼らへの思いやりと尊敬、ともにいること、ただそれだけだった。

私はリラックスし、緊張が解けた。弱い、虐げられた人々がもつ特別の賜物を、ここでも味わった。

私の話を聴きに来た人びとは、障碍を持つ人たち、介護の専門家、大学生や家族等、様々な人たちだったが、私の話に対して喜びや希望に満ちた応答をしてくれた。それは、この人たちが、日頃からイエスと親しく交わり、そのことを通して、深い内的な自由を得ているためだろうと、私は思った。

日本の社会は、外側の振る舞いや、相互の挨拶の細かい点、また、「言った・言わない」に関して、「こうあるべき」ことを、かなり強く人々に求める、無言の圧力のある社会のように思われた。それがどの程度広がっているかは分からないが、人々の味わう重圧の一端を、少しだけ知ることができた。

私の母国オーストラリアは、その点、もっと自由である。しかし、知的な分野や、学問や社会活動や神学の領域では、近年、場当たり的に政治的正当性ということが強調されるようになり、その結果、創造性の欠如を招いている。

これと対照的なのは、知的障碍者や、家族、ケアワーカーたちの、何にもとらわれない振る舞いであろう。そこには、もはや、自己防衛的な見せかけの尊敬や、低レベルの受容的姿勢は無い。

私の話を聞いて、高い教育を受けた人であれ、そうでない人であれ、あらゆる種類の人々が、イエスの言葉と行動から、新しい自由を経験することが分かった。私自身も、キリストがもたらす深い内的な自由を知り、もっと自分のものにする必要があると感じている。

イエスが、（視力障碍の人、ハンセン氏病の人、死にゆく人や、死人など）肉体的に障碍を負った人々に、自由をもたらしたことを伝えていた私は、やがて、イエスは健常な人々にも自由をもたらしたことを語りたくなった。肉体は健全であるが、ある面で問題を抱えた人達、例えば、五人の夫を持つサマリヤの女や、裕福ではあるが、不正に税金を取り立てていた取税人ザアカイである。イエスはこれらの人たちにも自由をもたらした。一方、パリサイ人や律法学舎、総督ピラトや、放蕩息子の兄は、イエスがもたらす自由は、、自分たちの身分やキャリアに脅威をもたらすと受けとめたのだった。

私は、私の旅や日程を充実させるため、核となって働いてくれる女性たちがいることに気づいた。専門家だったり、子育てを終えた人であったり、介護職に深く関わる人であったりしたが、その大半はプロテスタントの信者だった。

男性も幾人かいたが、日頃からかなり多忙な女性たちが、私のために貴重な時間をさいて労している様子に驚かされた。

私自身はそのようなことをされるほどの価値ある人間ではないが、この女性たちが同胞を思い、人々の苦悩に気づき、霊的な必要性を察知していることはよく分かった。彼らは、この思いを私と共有することを願い、本物のキリストが、苦しんでいる日本人とその家族、そして自分たちのために、生き生きと働いてくれるよう祈っていた。

私は幾つかの高校で教師と生徒達にも話をしたが、その多くは未信者だった。十六歳の少女が、「マザーテレサは完璧な人ですか」と質問した時には、やや戸惑ったが、その生徒は、私の回答を通して、人は弱さや欠点を持っていても大丈夫であること、神様と隣人のために素晴らしい働きをすることができると分かって、希望を抱かされたようだった。

（つづく）

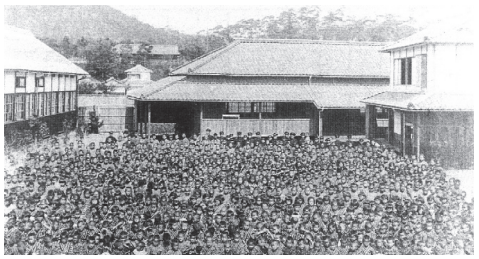
石井十次賞を受賞して

慈愛園　潮谷愛一・義子

私達夫婦は、去る四月、「児童福祉の父」といわれている石井十次先生生誕の地、宮崎県高鍋町において第三十三回石井十次記念賞を頂きました。学生時代から尊敬している大先生であり、大変光栄なプレゼントに感激しています。

石井先生は、明治二十年（一八八七年）、二十一歳の時、医師への道を捨て、孤児の救済に取り組まれました。社会福祉制度の何もなかった時、日本に初めて子どもの施設を創ったのです。

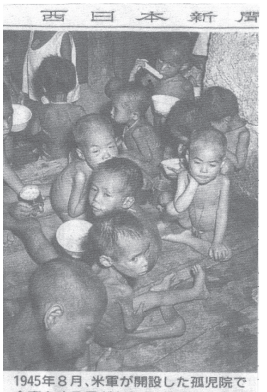
その五年後は、千二百人の子どもたちの世話をし、岡山から、宮崎に移住。毎日、千二百人の子ども達の世話をしたなんて、今でも出来ることではありません。写真はその当時のものですが、神様の助けがあったからこそできたのだと思います。



私は、熊本にある総合福祉施設「慈愛園」（一九一九年創立）で、十八歳まで養護施設の子どもといっしょに育ちました。「慈愛園」は、貧乏・結核・身売りされた子ども・老人を救おうと、米国のルーテル教会宣教師たちがつくった施設で、私の父母はそこで働いていました。昭和十六年、日米戦争となり、アメリカ人は帰米しましたが、戦後、宣教師たちは再訪日し、戦争で親を失った孤児養育をはじめました。私の父母も戦後再びそこで働き始めたのですが、施設で暮らすことになった私は、孤児たちの貧困と浮浪と心理的不安定に出くわし、恐怖と憐みと同情を体験しました。

中学三年生の時、児童福祉の道に進む決心をし、児童が幸せに生きるために何をすればよいか明らかにしようと、迷いもなく、日本社会事業大学に進みました。

大学では妻義子と出会い、同じキリストを信じる者として力を合せて仕事をしようと約束しました。



1945年8月、米軍が開設した孤児院で食事をする子どもたち。神谷さんも一時、収容された（沖縄県公文書館所蔵）

大学卒業後、妻義子は佐賀県庁、福祉事務所に就職。私は慈愛園分園の大分県別府市にある別府平和園（児童養護施設）で働きました。

しかしその時点でも、子どもを幸せにするために何をすべきか見つけることができません。そんな三十歳の時、アメリカ交換留学と同国での情緒障害児施設研修の機会があって留学したのですが（昭和四十五年）、しかし、アメリカでも見つかりません。

帰日して短大教師を十二年しました。そして昭和四十三年、アメリカ心理学者ハーロウの著「愛のなりたち」（ミネルヴァ）に出会いました。猿の実験を通して著者が見出し、最重要と指摘したのが「愛着」でした。

私はこれを読み、日本の母子関係の良さは、オンブ・ダッコ・そい寝にあると確信しました。西洋にはこの育児文化はありません。日本はすごいと思っていたら、昭和四十年から、それは良くないと全国の保健所が言い始め、西洋の育児方法を広め始めました。母と子の間の「愛」を遮断するなんてとんでもないと思い、私は、オンブ・ダッコ・そい寝を知らずに育てられる子供は危ないと主張し続けました。実際に事件が起きて、昭和六十年に全て良いに変わりましたが、その二十年の間にも三千万人もの子どもが生まれています。

妻はその後慈愛園乳児ホームで働き、熊本県知事になり、県民のくらし向上のため八年間務めました。

そんなこともあって、今回、二人で石井十次賞をいただきましたが、天にも昇るようなうれしさです。

最近、芸能人のやす子さんが、「24時間テレビ」のチャリティマラソンランナーに選ばれたニュースがありました。「マラソン児童養護施設募金」の名目で、寄付金は全て、全国の児童養護施設のため活用されます。やす子さんは「自分は児童養護施設出身者」と語り、「恩返しができたらと思う。全力で走ります」と抱負を語っています。

施設出身者がこんなにも出自を誇りにする、そのお手伝いを、私共二人でしてきたと自負しています。

やまばと焼菓子の販路拡大

ワークセンターやまばと　畠　夏実

二〇二四年二月より、ワークセンターやまばと自主製品の『フィナンシェ』が東名高速道路牧之原サービスエリア（下り）にて販売されています。

さかのぼること一年前、ワークセンターやまばと職員駐車場にハチの巣があったそうです。駆除したいが、低価格でやってくれる業者はないだろうか…、そんな思いで法人本部に問い合わせたところ、職員のお知り合いの方でハチ取り名人がいらっしゃるとのこと。無事ハチの巣を駆除して頂きました。無償で引き受けて下さり、ほんのお礼にとやまばとの焼き菓子をお渡ししました。後日、その方は上司にも分け、「そのお菓子はおいしい」ということになり、お二人が事業所を訪れ、『フィナンシェ』を牧之原サービスエリアで販売したいというお話になったわけです。

なんと、ハチ取り名人の方は牧之原サービスエリアの副店長だったのです。話し合いを重ねながら、二月から販売することになり、今のところ売り上げは好調のようです。

高速道路を利用する方が増える見込みがあると注文数が増え、ご利用者もお菓子の袋入れ、シーラー掛け、シール貼りと忙しくなります。パン工場での作業は、特別感があるのか、ご利用者も張り切って行っています。

売り上げももちろん大事ですが、「障がいを持つ方も地域で頑張っている」ことを広めるため、支援してくださることに感激しています。思いもよらないところから繋がったご縁、大切にしていきたいと思っています。

（サービス管理責任者）

ワクワクドキドキの納涼祭

相寿園　柴田慎也

七月二十三日、ふじの間や食堂にて「納涼祭」を開催しました。

利用者の皆さんには、事前に白ゆり会（利用者自治会）でお祭りのお知らせをしました。その直後から「今年はどんな納涼祭かね？」「カラオケ何を歌おうかな？」と、ご利用者のソワソワした声が聞こえました。

例年は、カラオケ大会をメインにした納涼祭。今年は、童心に戻って楽しんでもらおうと、ゲームや食事会を企画しました。ゲームは、投げ輪ゲーム・魚釣りゲーム・ボウリングくじ引きの三つを用意し、グループに分かれて行うことにしました。

職員達は協力しながら、納涼祭の準備を進めていきました。利用者の皆さんがどのような反応をするのか、カラオケがなくてどのような反応するだろうか不安を感じながら準備を進めていきました。

当日、様々なことが用意されているのを見て、ご利用者は笑顔になりました。ゲームが始まる前から、「懐かしいね」「早くやりたいね」などの声が聞こえました。

いざ、職員見守りのなか、納涼祭スタート。みなさんは、真剣に、童心に返った表情でゲームに加わっていました。見守っている職員も、ご利用者と一緒に熱くなったりしました。参加者のなかには、ゲームの成果を嬉しそうに見せてくれる方もいました。

ゲーム終了後、第二部として食堂でバイキング形式の食事。様々な食事を用意して、利用者に選んでもらい、おおいに楽しみました。

食事後は、最後のイベント、「ビンゴ大会」。当たった数字に、一喜一憂しました。

納涼祭の最後にご利用者から、「今年のお祭りも良かったね」という声を聞くことができました。これを聞いて、企画して良かったなあと、ほっとしました。

（施設長）

外岡先生による虐待防止、身体拘束及びBCP研修を受けて

垂穂寮・ケアセンター野ばら　石川忠昭

この原稿を書いているのは八月九日。昨日、十六時四十三分に宮崎県日向灘沖を震源とするマグニチュード7．1の地震が発生。今まさに、南海トラフ巨大地震臨時情報が初めて発表されたところです。

施設のBCP（事業継続計画）は、二〇二四年度よりその策定が完全義務化となり、当事業所でも防災委員が中心となり、取り組んできました。

BCPには感染症に係るものと災害時に係るものがあり、後者に関しては、①平常時の対応②緊急時の対応③他施設及び地域との連携を網羅しなければなりません。

外岡先生からはわかりやすくする例えとして、「感染症は頻繁に発生するので、そのBCPは普段着のようにすぐ使えなければならない。一方災害時のBCPはめったに発動しないので一張羅の様なものだが、すぐに発動できる準備はしておかなければならない」

との説明がありました。

この他、虐待や身体拘束に関することも学びました。虐待の類型や定義を法的な視点から理解し、現場で起きている事に関してはそれらに照らし合わせて判断できることが重要であること。そもそもすべての人の人格を傷つけ尊厳を侵害してはならないというのが、法律の原理であること。

これを聞いて、私は法人が掲げる理念や「わたしたちの願い」の内容にも非常に強く関連しており、理念に立ち返ることが虐待防止への一番の近道なんだろうなと感じました。

自分自身が管理者となった今、それについてより強く意識し、発信していかなければならないと思っています。

今回の研修内容だけでなく、多くのテーマに関しても外岡先生が熱心にYouTubeで発信されていることを恥ずかしながら初めて知り、研修後早速拝聴しました。皆様も是非ご覧いただき、チャンネル登録をしてみてはいかがでしょうか。

（施設長）

外岡先生のYouTube

聖ルカSNS委員会

聖ルカホーム　大石有紀

聖ルカホームのインスタグラムが開設され、二年目になりました。私はこの二年間、SNS委員として活動してきました。

日々の中で見える入居者様のありのままの姿や「聖ルカホームはこんな施設です」というアピールポイントを、ご家族や地域の方、福祉の仕事に興味のある方に見ていただけたらと思い活動しています。

月に一度行われるSNS委員の会議では、どんな記事が喜ばれるだろう、こんな素敵な写真が撮れたよ、と職員同士で意見を出し合い、投稿の振り分けや写真・動画の確認、役割分担をしています。私自身、業務中のかかわりのなかで「素敵な笑顔だな」「楽しそうだな」と感じる場面をカメラに収めることは今までもしてきましたが、インスタグラムという発信場所が出来たことで、今まで以上に入居者様の表情や声に、自然と注目するようになりました。

最近は写真だけでなく動画の投稿も増やしています。写真との違いは、動きや声が入ることによる情報伝達量の多さだと感じています。文字や文を読むよりも、速く、正確に、その場の様子をキャッチできるため、幅広い層に伝わりやすいようです。実際に動画の投稿が増えてからは、施設内でも「この前の投稿見たよ、良かったよ」と声をかけていただく機会が多くなりました。

普段は離れて暮らしているご家族にも「聖ルカホームではこのように過ごしているんだな」と様子が伝わったり、お元気な姿を見ていただけるなら、とても嬉しいです。また、ハッシュタグを使用し「牧之原市」とつけて投稿することで地域の方々の目にも留まり、今後の更なる交流増加にもつながるよう願っています。

（事務員）

歩みのあと

（7月1日～8月31日）

●個別のニュース

〈法人〉7／4島田市自立支援協議会に長澤理事長が参加。7／8聖隷クリストファー大学の講師として理事長出張。7／5日本キリスト教社会事業同盟総会に理事長ほか3施設長参加。7／6SHIZUOKA福祉の就職相談会に事務局長参加。7／11新施設長達の研修。7／16聖隷奨学会に参加。7／27～29恵泉女学園（生徒19名、教師2名）の皆様が来訪。各施設で奉仕と交流。8／8ミャンマーから女性2人（特定技能生）が聖ルカに。8／15相良高校生オープンカンパニーを聖ルカホームで開催。8／22吉田町のあつまリーナ施設運営委員会に理事長他参加。8／24～31EPA生確保のため現地説明会（インドネシア）に大畑部長と関根事務長参加。

《垂穂寮》7／8風棟トイレの大規模工事が終了。7／21遊びりテーション。8／3大津夏祭りの花火を見に。職員6名、利用者14名外出。

《野ばら》7／4七夕の会。7／11おやつを作る。7／18絵画教室。

《みぎわ》7／1福祉職希望の高校生とご家族へ施設説明。7／28誕生会でケーキを食べてお祝い。8／24ホットケーキ作り。

《やまばと希望寮》7／16松浦先生の音楽教室。7／17大橋先生の音楽教室。7／31歯科衛生士会の訪問ブラッシング指導。7／31職員研修「強度行動障害について」。講師は大池（サビ管）、大川（生活支援員）。

《生活支援センター》牧之原市、吉田町、島田市の、自立支援協議会等の会議へ。8／13から1か月間、初めてのソーシャルワーク実習生（静岡福祉大学学生）受入。

《わかば》7／7、8／4吉田港海岸清掃。7／21チーズケーキづくり。コーヒーと共に美味しいただく。

《もくれん》7／7、8／4吉田港海岸清掃。夕飯特別食（7／26うな丼、8／9冷やし中華）。

《花もも》7／10障害者スポーツ巡回指導でボッチャなどを大いに楽しむ。8／9納涼祭にご家族参加。

《かたくりの花》7／8施設で収穫した野菜をご家庭に配ると「作りました」と写メの返信。私達も皆で夏野菜カレーを作り大喜び。8／8スイカ割り。8／23流しそうめん、目を輝かせて喜ぶ。

《マーガレット》7／5七夕行事を楽しむ。7／29エンジョイプランでらぽーと磐田へ。食事と買い物。8／9あつまリーナ夏祭り。8／27予告なしの防災訓練。

《カサブランカ》7／18島田警察署交通課の方を招いて交通安全研修。7／20職員研修。8／6藤枝特別支援学校の先生が見学に。8／23焼肉「どんどん」にてご利用者、職員夏の慰労食事会。

《コスモス》7／12個別体験学習、職員、ご利用者4名で電車に乗り静岡へ。各自が場所や食事を選び嬉しそう。7／24島田市観光課職員による「島田歩き、しまだ名所巡り」出前講座。8／9縁日。手作りの金魚すくいやくじ引き。

《なのはな》7／26起震車体験（民生委員、地域の方参加）災害や避難生活について学ぶ。8／15夏祭り手作り硬貨で金銭支払いを学びながら昼食やゲームなどを楽しむ。

《希望の家》7／19交通安全教室。7／26職員が救命救急講習受講。7／31歯科検診。8／2夏祭り、昼の選択メニューとゲームを楽しむ。

《ふれあい》7／15天王山公園草刈り作業。8／5七夕、短冊に願いを込めて飾る。8／5歯科検診。

《あさがお》7／3七夕、彦星、織姫の人形を作り、短冊を飾る。8／12夏祭り。花火をかたどった紙皿に各自で装飾。昼食は冷やしそうめん、たこ焼き、等々。

《WoCやまばと》7／7ご利用者、職員各2名によりパン販売。7／15七夕飾り。願い事を短冊に託し、手作りの七夕ゼリーで季節を味わう。8／9納涼会。昼食後、待ちに待ったお菓子すくいと利用者の大好きなカラオケ。

《さくら》7／5七夕飾り（旅行にいきたい、作業をがんばる、けっこんしたい…等々）。8／9あつまリーナ夏まつりを楽しむ。

《レタスクラブ》7／10ランチつくり（イタリアンチキン、とうもろこしご飯、スープ）8／9あつまリーナ夏まつりで、ゲームの係を担当。

《聖ルカホーム》7／27～29恵泉女学園中高生19名と先生2名、聖ルカほか事業所で奉仕と交流。8／8ミャンマー人女性2名（特定技能実習生）着任。

《グレイス》7／5りんどうユニットでボーリング大会。7／24体操のあとに旬の茹でトウモロコシを頂く。7／26花火を見ながらゼリーを頂き、夏を満喫。8／15静岡市消防局による救急法講習。8／20冷しスイカで夏を感じて頂く。8／27ミャンマーから特定技能生フーさん、カンさん到着。

《相寿園》7／2お楽しみクラブ。7／5習字クラブ。7／9、8／23白ゆり会、誕生月外出でアピタへ。7／12盆供養。7／16、8／20大場さんレク。7／17、8／21笑いヨガ。7／23納涼祭。7／27選択おやつで桃羊羹など頂く。

《真菜》7／10グームソーダ風ゼリーを作り花ももへお届け。7／17手作り昼食、リクエストでちらし寿司、カボチャの煮物。7／20移動図書館で本を借り「花さき山」の読み聞かせ。7／24、25お茶の都ミュージアムへお出かけ。7／27恵泉の皆さんと交流。8／13～15夏祭りカラオケ大会で花ものご利用者と交流。百歳のご利用者が自慢の美声を披露。手作り昼食。8／26、28図書館へお出かけ。

《すずらん》7／20絵心が加わったアート習字、今にも飛び出してきそうな字を描く。7／26食事作り、そうめんと天ぷら。暑い日はそうめんが一番。8／21、22夏祭り、ヨーヨー釣りや盆踊り。人間輪投げでは、職員めがけ浮き輪を投げ入れ、夏笑い。8／23すずらん14周年、感謝を込めておやつバイキング。好きなおやつを好きなだけ食べる。

《さふらん》総合事業対象者からの支援要望が多く、相良方面のケースが増加。

《シャローム》7／11主任ケアマネ連絡会・地域課題検討。7／17相良地区民生委員交流会。7／17認知症医療疾患センターで研修。8／28牧之原市個別避難計画に関し、福祉専門職への理解啓発研修会に参加。

《オリーブ》7／23牧之原市長寿介護課による運営指導。8／21運営指導結果通知。改善必要事項は「ハラスメント対策における指針の整備等」。職場のハラスメントについて「方針の明確化、従業者への周知・啓発についての措置を講じ、その結果を報告すること」となった。

《ぶどうの木》7／4事業所連絡会の虐待研修参加。7／12～クーリングシェルター。7／18ほか、婦交さんより講話。8／14市の歯科衛生士さんによる実技と講話。8月4週目夏祭りで金魚すくい等楽しむ。8／26寄子へポイント啓発。

ボランティア活動

★活動者名（個人は姓名のみ）

個人　秋野まさ子・鈴木初代・松下きよ子・鈴木武行・鈴木展行・栗原尚巳・松中正男・松中春江・岡平泰雄・大塚はるみ・大石節子・小島茂美・三浦孝・大川原富美子・吉永治子。

団体　日赤奉仕団（清掃）。

実習生受け入れ状況

〈垂穂寮〉
浜松学院短期大学　2名　7／16～7／31
常葉大学　2名　8／19～8／31
〈なのはな〉
清流館高校　2名　7／9～7／10
〈あさがお〉
清流館高校　2名　7／9～7／10
〈かたくりの花〉
常葉大学　1名　8／19～8／30
〈やまばと希望寮〉
浜松短期大学　2名　7／1～7／13
浜松未来専門学校　2名　7／15～7／27
恵泉女学園　11名　7／28～7／21
常葉大学　2名　8／8～8／21
常葉大学　1名　8／22～（9／5）
〈支援センター〉
静岡福祉大学　1名　8／13～（9／12）
〈すずらん〉
恵泉女学園　10名　7／27
〈コスモス〉
清流館高校　2名　7／1～7／2
常葉大学　1名　8／19～27

寄付金状況報告　（単位：円）

	寄付金	指定寄付金	合　計
4月～7月	2,478,000	0	2,478,000
8月	579,200	0	579,200
計	3,057,200	0	3,057,200

※2022年度より、機関紙代収入は計上していません。
すべて寄附金収入として、計上しています。

あとがき

☆表紙の写真は相寿園のご利用者。今日はおやつ日で、いつにもまして、素敵な笑顔です。

☆潮谷愛・先生、義子先生の歩みについては、三ページの文章をご覧ください。現在、愛・先生は九州ルテール学院大学名誉教授、義子先生は（福）恩賜財団済生会会長。義子先生には四月の全体職員研修で心に残る講演をして頂きました。

☆台風10号の被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。法人内数施設でも雨漏り被害がありました。残暑、異常気象に、これからもご自愛ください。〈I〉